

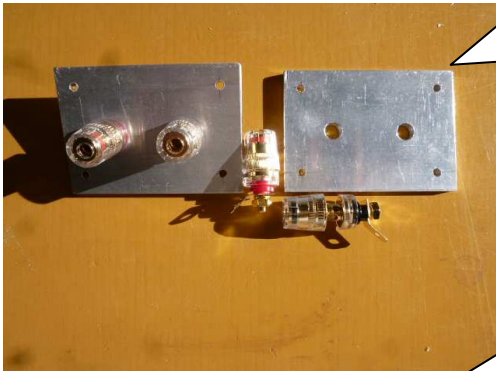
テレビ台の製作

入社2年目、賞与を叩いて実家へ送った「26型パナカー」がとうとう壊れてしまいました。今回の故障はブラウン管の寿命でした。2011年7月の地デジ化の時、RFコンバータを外付けし対応、女子ワールドサッカー優勝戦をこのテレビで観戦、その後、垂直同期回路の周辺回路が破損、修理し何とか持ちこたえていました。2013年7月のある日突然昇天となりました。ネットでブラウン管のみの調達も考えましたが、パナソニックでいくらかの貢献をと考え、薄型テレビに交替。今回は、42型テレビを迎えるにあたりスーパーパワー付きテレビ台の製作記録です。



板材は全て手持ち材料。板材を切り出し鉋をかけテレビ台となる木枠を組上げたところ。台の板厚は40mm水平直角精度を出す為一日がかりで鉋がけしました。

バスレフ型でポートの周波数は数種類検討し予備実験で65Hzと70Hzを検討。最終的には65Hzに決定しました。



例によってターミナル板は板厚4mmのアルミ板を切り出します。ターミナルは日本橋で何時も手に入っていたストック品。

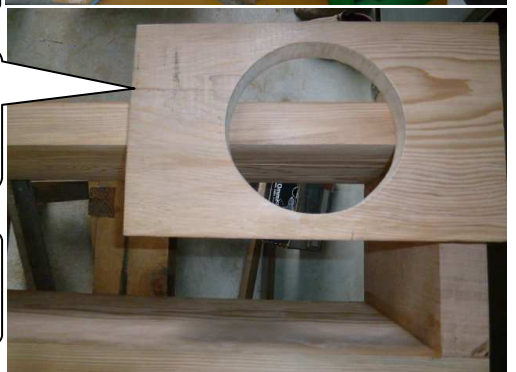
背面、バッフル板の穴空けをジグソーで切り出したところ。

ポートとターミナル保持版を背面板に取り付け。



テレビ台にバッフル板を取り付け。ストック品のスピーカは16cmウーハー、Fセロが不明です。発振器で簡易計測、80Hz前後でした。

バッフル板を取り付けた後、側板を組み付けます。容積は10リットルでバスレフ型として設計しています。



スピーカとターミナル板を取り付け。ポート位置はデザイン上背面に配置しました。

2年前、製作したトルボーイ型6cmフルレンジダブルバスレフスピーカと合わせ、自作アンプで音出し。荒削りながら重低音も再生しています。今後、高域カット用のコイルを自作しチューニングする予定です。

本体の音は全く貧弱で、パナソニックの音作りはどこへ行ったのでしょうか？廃棄処分の「パナカー」の方が音作りはしっかりしています。明らかに手抜きです。合わせてアンプやスピーカを買わせるのでしょうか？ unnecessary機能ばかりで基本を忘れて寂しい限り！



こちらが往年のパナカーです。地デジ対応もむなしく7月半ば昇天し廃棄処分。43年間お疲れ様、そして有難う！！

